



秦小の子どもたちの学力向上のために

— 自校の課題を踏まえた学力向上対策の視点 —

秦小学校 校長 白川 公一

自校の課題

- 国語では、問題の意図を正確に読み取ること、条件や課題にあった文章を書くことに課題がある。
- 算数では、基礎的な内容は身に付けてはいるが、言葉や式を使って相手に伝えるように説明することに課題がある。
- 最後まで意欲的に取組もうとする児童と、そうでない児童の差が大きい。

学力向上への具体的な方策

下の内容を確認して、学力向上のために取り組んでいるか自己評価してみましょう。

- 授業において、学習内容と身に付けさせたい力を明確にし、学習課題と学習活動を設定するとともに、まとめや振り返りを確実にしている。
- 板書の仕方（書く内容、字の大きさ、色使い、図や絵の使い方等）やノート指導を学校で統一し、全教員で取り組んでいる。
- 宿題や自主学習、補充学習を効果的に活用し、基礎学力の定着を図っている。
- 過去に実施された各種調査問題に繰り返し取り組んでいる。
- 熊谷市学力向上テキストを授業や自主学習の資料として活用している。
- 自分の考えを書く機会を意図的に設け、思考・判断・表現する時間を確保している。
- 学び合い活動を取り入れ、自分の考えの根拠や友だちの意見のよさ、共通点や相違点をはっきりさせることで、子どもの考えを広げたり深めたりしている。（アウトプット）
- 具体物やICT資料等を充実させ、子どもの興味・関心を高めている。
- 発達段階に応じた適切な量の宿題を出し、家庭での学習習慣の確立を図っている。
- 自主学習の取り組み方（内容・時間）を例示し、学校が自主学習の取組を見届けている。
- 家庭読書の日を設定するなど、読書指導の充実に取り組んでいる。
- 「4つの実践」の実践状況を把握し、今年度の目標値を設定するなど、学校・家庭・地域が一体となって、確実な定着を図っている。
- 「3減運動」の実施を呼びかけ、学校・家庭・地域が一体となった取組を行っている。
- 朝自習の時間を使って、ドリルやプリントに取り組ませ、基礎基本の定着を図っている。
- 日々の授業を大切にし、授業の中で児童と徹底的に関わっている。
- 少人数のよさを指導にいかしている。

【上記以外の取組】

- 秦小スタンダードを活用し、学習規律の徹底を図っている。
- 計算オリンピックや漢字小テストを活用し、基礎基本の定着を図っている。
- 7月に3日間の「サマースクール」を実施し、児童の基礎学力の定着を図っている。
- 夏休みの秦ナビ（補充学習）を実施し、学習の苦手な児童に対応している。
- 学習の広場を活用し、教え合い学習を実施している。